



指扇中だより



～WE LOVE SASHIOGI!～

〒331-0078 さいたま市西区西大宮 3-31-1 TEL 048(624)6234 FAX 048(624)2479

『群青日和』

校長 おおこうちのりかず 大河内 範一



「万年筆〔まんねんひつ〕」を使ったことはあるだろうか。万年筆とは、ペン軸の内部にあるインクが毛細管現象（理科の用語ですね）によって、溝が入ったペン先に伝わっていく筆記具である。昔は高級品という印象が強く、「大人に近づいたら使用するもの」という勝手な認識があったが、最近では、かなり安価な万年筆が販売されていて、1本数百円のものも登場している。「ちょっと使ってみようかな」と若年層でも気軽に手にすることができるようになってきたと感じている。

万年筆に強い筆圧は必要ない。力を抜いて、紙の上を滑らせるように書いていく。すらすらとなめらかに書けるので、いつもよりも文字が美しくなった気分させてくれる。フィギュアスケートで氷上を滑る羽生結弦選手のイメージに近い。

万年筆はインクの色を自由に取り替えることができるのだが、私は黒ではなく、やや青みがかかった「ブルーブラック」が好みだ。乾くと黒よりも柔らかく洗練された印象を与えるだけでなく、はねやはらいなどの筆跡をより美しく見せられると言われている。また、最近ではカラフルな色も揃っていて、「ゴールデン・ブラウン」や「ミステリアス・ブルー」など、どんな色に書きあがるのか想像するだけで楽しくなってしまうような名称のインクもある。これは、もはやアートの域に達していて、私にはたまらない領域になっている。

文字が上手に書けると、相手によいイメージをもってもらえるので、とても大切なことだと思う。「文字が上達するテクニック」や「美文字のコツ」など、ヒントの類いは、本やインターネットなどで山のように出ている。その中で、まずは正しい鉛筆の持ち方を確認することが重要だと書いてあった。「人差し指は指腹で上から押し当て、鉛筆の先から25mmあたりのところに置く。親指は人差し指より少し後ろ、中指は人差し指より前に置いて、中指の爪の根元で鉛筆をしっかりと支える」という表記があり、自分も実際に試してみたところ、ほぼ合致していた。皆さんもこれに従って一度確認してみることをお勧めする。また、「文字を書く時はゆっくり丁寧に」というフレーズもあった。心に留めておきたい。

『書心画也』（しょは、しんがなり）・・・文字は書いた人の心をそのまま反映しているという意味である。ぜひ、お気に入りの筆記具を手に入れて、自分の人柄がにじみ出るような、素敵で美しい文字を書いてほしいと願う。